

イデックスオイルレポート ~For a month~

株式会社新出光

【月次概況】

●第1週、5/2のWTI原油は、先週比4.73ドル安の58.29ドルとなった。石油輸出国機構(OPEC)加盟国とロシアなど非加盟産油国で構成する「OPECプラス」の増産への警戒感が強まる中で売られ、反落した。中国商務省は2日、トランプ米政権が関税交渉を求めて接触してきたため「評価を行っている」と明らかにした。一方で、トランプ米大統領は1日、イラン産石油・石油化学製品を購入する国や個人などを対象に二次的制裁を科すとSNS上で警告した。

●第2週、5/9のWTI原油は、先週比2.73ドル高の61.02ドルとなった。スイスで週末に開かれる米中高官による通商協議を前に、トランプ大統領は対中関税は80%が正しそうだ」との見解を表明。協議の結果次第で追加関税を大きく引き下げる考えを示唆した。石油消費大国である米中の貿易摩擦が和らぐとの楽観的な見方が広がる中、需要見通しへの過度な懸念が後退。

●第3週、5/16のWTI原油は、先週比1.47ドル高の62.49ドルとなった。ロシアとウクライナの停戦協議の進展が限定的だったことも相場の下支え要因となった。両国の代表団が16日、トルコ最大都市イスタンブールで協議。終了後の両代表団の説明によると、ウクライナ側は首脳会談の実施を要請し、双方が近く約1,000人の捕虜交換を行うことで合意した。

●第4週、5/23のWTI原油は、先週比0.96ドル安の61.53ドルとなった。トランプ米大統領はこの日朝、欧州連合(EU)との通商協議が停滞しているとした上で、6月1日付でEUからの輸入品に50%の関税を課すべきだとの見解を表明。貿易摩擦激化に伴うエネルギー需要の減退懸念が再燃し、相場は一時60ドル付近に急落した。

●第5週、5/30のWTI原油は、先週比0.74ドル高の60.79ドルとなった。OPECプラスの有志8カ国が31日に予定されているオンライン会合で、増産決定が見込まれている7月の原油生産量について、市場が見込んでいた規模(日量41万1000バレル増)を上回る増産が検討される可能性がある」と報じた。これを受けて、需給緩和懸念が強まり、原油が売られた。トランプ米大統領は30日、SNSの投稿で「中国は米国との合意に関税に違反した」と批判。ベセント米財務長官は29日、FOXニュースとのインタビューで中国との交渉に関しては「若干停滞している」と認めた。

|  |      |       |         |     |         |        |         |     |       |
|--|------|-------|---------|-----|---------|--------|---------|-----|-------|
|  | 5月平均 | WTI原油 | 60.94ドル | 前月比 | -1.93ドル | 為替 1ドル | 145.75円 | 前月差 | 0.26円 |
|--|------|-------|---------|-----|---------|--------|---------|-----|-------|

| 日付        | 補助金     | 出光興産 | 変動幅  | ENEOS | 変動幅  |
|-----------|---------|------|------|-------|------|
| 5/1~5/7   | 1.1     |      | ±0   |       | ±0   |
| 5/8~5/14  | 1.1     |      | -4.5 |       | -4.5 |
| 5/15~5/21 | 0.0     |      | +0.5 |       | +0.5 |
| 5/22~5/28 | 7.4/5.0 |      | +2.5 |       | +2.5 |
| 5/29~5/31 | 8.4/5.0 |      | -3.5 |       | -3.5 |

※5/22以降の補助金については、左 ガソリン・軽油/右 灯油・重油

| メニュー価格推移 | 0.5HPP           | ENEOS LS船用燃料油基準価格 |                                     |
|----------|------------------|-------------------|-------------------------------------|
|          | 2025年1-3月C重油決定価格 | 94,130            | 96,130【 94,130(メニュー)+ 2,000(プレミアム)】 |
|          | 2025年4-6月C重油仮価格  | 84,060            | 86,060【 84,060(メニュー)+ 2,000(プレミアム)】 |
|          | 2025年4-6月C重油決定価格 |                   |                                     |
| 決定価格 前期比 |                  |                   |                                     |

| 内航燃料油価格推移 | 適合C重油         |         | A重油     |
|-----------|---------------|---------|---------|
|           | 2025年1-3月決定価格 | 101,530 | 107,600 |
|           | 2025年4-6月仮価格  | 91,460  |         |
|           | 2025年4-6月決定価格 |         |         |
|           | 決定価格 前期比      |         |         |

| CIF価格推移 | 年/月  | 9桁速報 | 原油CIF価格<br>円/kl | 通関CIF<br>ドル/bbl | 為替レート<br>円/ドル | 原油CIF価格<br>前月比 |
|---------|------|------|-----------------|-----------------|---------------|----------------|
|         | 25/4 | 9桁速報 | 73,438          | 79.00           | 147.78        | -1,333         |
|         | 25/5 | 最終予測 | 66,966          | 73.24           | 142.37        | -6,472         |
|         | 25/6 | 展望   | 59,680          | 67.77           | 140.00        | -7,286         |
|         | 25/7 | 展望   | 58,919          | 67.88           | 138.00        | -761           |

【次世代エネルギー】〈 発電事業者 LNG火力発電の発電能力増強する動き広がる 〉

データセンターなどで今後、電力需要の増加が見込まれる中、発電事業者の間では、石炭などに比べて二酸化炭素の排出量が少ないLNG＝液化天然ガスを燃料にした火力発電の発電能力を増強する動きが広がっている。

このうち、国内最大の発電事業者「JERA」は、LNGを燃料とする火力発電所の発電能力を、ことしから5年間で120万キロワット以上、増やす計画です。具体的には、LNGを燃料とする発電設備を、ことし3月には、千葉県にある発電所で新たに1基、稼働させたほか、愛知県でも2029年度をめどに新たに2基、稼働させる計画である。

このほか、ことしに入ってからでは、北陸電力が、富山県にLNGを燃料とする発電設備を新設して、2033年度の運転開始を目指す計画を発表したほか、大阪ガスも、兵庫県にLNGを燃料とする発電設備を新設して、2030年度の運転開始を目指す計画を発表している。

データセンターや半導体工場の増設などで今後、電力需要が拡大する見通しとなる中、各発電事業者は、脱炭素を進めつつ電力需要に応えるため、石炭などに比べて二酸化炭素の排出量が少ないLNGを燃料とする火力発電を強化している。

ただ、LNGをめぐるっては、世界各国で調達を強化する動きが出ていて、日本が、安定的に確保していけるかが課題となっている。

出典：NHK <https://www3.nhk.or.jp/news/html/20250512/k10014802791000.html>

【6月価格変動要因】

●需要：  
・米国経済は憂いを帯びつつも堅調。足許の企業収益は堅調も業種により濃淡。ヘルスケア、通信s-アビス、情報技術は堅調な一方、素材、生活必需品、不動産、エネルギーは減益。消費者マインドの悪化や原油価格の下落が利益を下押し。先行きについては前回決算時点の予想退避で下方修正。関税によるコスト増や需要減の影響を織り込みつつある。  
・中国はまちまち。貿易統計では、4月の輸出は前年比+8.1%と前月の+12.4%から減速。駆け込み需要が一巡し、対米輸出は前年比▲21%と関税影響が如実に表れる内容となった。先行きについても不動産市場の底這いが継続しており、先行指標の販売に回復の兆しが見えない。

●供給：  
・5/31、OPEC+は7月分の生産を411KBD増加させる事で合意。5、6月に続く大幅な増産決定となっており、当初計画から前倒しで供給を増やしている。背景にはカザフスタンやイラン等、恒常的な割当違反国とサウジアラビアの対立が挙げられる。

●リスク資産・金融市場：  
・トランプ氏の発言に警戒感が強い。ただ足許の相場はトランプディールに伴う先行き不確実性がやや後退、米英・米中の合意がリスクオンを助長する流れとなった。

＜1ヶ月価格見通し＞ (単位: US/bbl)

|         | Brent | WTI |
|---------|-------|-----|
| High    | 70    | 68  |
| Average | 64    | 62  |
| Low     | 58    | 56  |

＜3ヶ月価格見通し＞ (単位: US/bbl)

|         | Brent | WTI |
|---------|-------|-----|
| High    | 73    | 71  |
| Average | 65    | 63  |
| Low     | 57    | 55  |

| 日付 | 国   | 6月経済指標カレンダー              | 日付 | 国   | 6月経済指標カレンダー                |
|----|-----|--------------------------|----|-----|----------------------------|
| 2  | 米国  | 5月ISM製造業景況指数             | 17 | 日本  | 日銀金融政策決定会合、終了後政策金利発表       |
| 3  | ユーロ | 5月消費者物価指数                | 17 | 日本  | 植田和男日銀総裁、定例記者会見            |
| 4  | 米国  | 5月ADP雇用統計                | 17 | 米国  | 5月小売売上高                    |
| 4  | 米国  | 5月ISM非製造業景況指数            | 18 | ユーロ | 5月消費者物価指数                  |
| 5  | ユーロ | 欧州中央銀行(ECB)政策金利          | 18 | 米国  | 米連邦公開市場委員会(FOMC)、終了後政策金利発表 |
| 5  | ユーロ | ラガルド欧州中央銀行(ECB)総裁、定例記者会見 | 18 | 米国  | パウエル米連邦準備理事会(FRB)議長、定例記者会見 |
| 6  | ユーロ | 1-3月期四半期域内総生産            | 20 | 日本  | 5月全国消費者物価指数                |
| 6  | 米国  | 5月非農業部門雇用者数変化            | 25 | 米国  | 5月新築住宅販売件数                 |
| 6  | 米国  | 5月失業率                    | 26 | 米国  | 1-3月期四半期実質国内総生産            |
| 6  | 米国  | 5月平均時給                   | 27 | 米国  | 5月個人消費支出                   |
| 9  | 日本  | 1-3月期四半期実質国内総生産          |    |     |                            |
| 11 | 米国  | 5月消費者物価指数                |    |     |                            |